

## IT21の会（平成18年9月）第102回議事録

日時：平成18年9月1日（金） 19時00分～21時00分

場所：日本技術士会 葺手第二ビル 5階C・D会議室

出席者：26名

### 配布資料

- ・ 0609-1 緊急地震速報 衛星配信サービスのご紹介（奥村啓介氏）
- ・ 0609-2 内陸被害地震における夜間気温の傾向と地震予報（3月～6月）成果（犬伏裕之氏）
- ・ 0609-3 IT21の会 第10期一般会計予算について（役員）
- ・ 0906-4 委員・WGメンバの改選について（役員）

### 議事

1. 「緊急地震速報 衛星配信サービスのご紹介」 宇宙通信株式会社 奥村啓介氏  
「〇〇秒後に震度△の揺れがきます」という緊急地震速報が8月1日より気象業務支援センターから一部先行利用分野向けに提供開始されている。宇宙通信(株)では、この情報を受けて衛星を使って二次配信するサービスを10月1日から開始する。サービス提供料金は、1契約当たり月額3万円からを予定している。  
衛星通信を使うメリットは、アンテナさえ設置すれば、全国どこでも、同じ情報をリアルタイムに受信でき、災害時でもほぼ確実に情報を受け取れる。降雨による回線への影響があるが、アンテナの大型化、電力制御などで影響を抑えることができる。  
サービス開始に向けて宇宙通信では次のような新システムの準備を進めている。配信システムでは、信頼性の向上、限定受信機能（CAS）の追加、コンテンツの充実を行う。次世代受信機も開発中で、35万円程度で提供を予定している。  
受信システムは、受信機、情報表示用PC、制御用PC、メール配信用PCをHUBで接続して構成する。活用イメージは、鉄道分野では、乗務員への緊急無線連絡、列車運行制御、路線図などへの被害予測表示、電力分野では、給電運用・現場作業における被害軽減、障害発生予防措置などが考えられる。放送業界の業態および映像として送り出す仕組みについて紹介された。
2. 「内陸被害地震における夜間気温の傾向と地震予報（3月～6月）成果」 犬伏裕之氏  
1994年新潟県において撮影された衛星ランドサットの地表面温度衛星画像を活断層地図と重ね合わせると、地表面温度上昇点が断層と一致。この温度上昇後に群発地震が断層近傍で発生。翌日1995年4月1日に被害を伴う地震が発生。この現象モデルは、地中の高温、高圧のガス・水蒸気・熱水が、断層領域あるいは微小破壊領域で上昇してくると考えられる。地震予測研究者犬伏氏の仮説は「地表面温度上昇が気温をも上昇させ、特に日照がない夜間こそこの上昇を確認できるのでは？」というものである。  
調査対象として以下の3つの内陸部の地震を取り上げ、地震の前に夜間気温の上昇傾向について調査した。①2003年7月26日 宮城県北部地震、②2000年10月6日鳥取県西部地震、③1995年1月17日 兵庫県南部地震。いずれの地震においても夜間気温の上昇が見られる地点がある。  
地表面気温上昇による地震予報の成果は次の通りである。地震予測情報を出して実際に地震が発生した割合は、3～6月トータル10回/24回（42%）であった。今後、他の手法と組み合わせることにより確率を上げることを考えている。
3. 全国大会参加のお願い 全国大会運営委員 小西洋三氏  
技術士全国大会の参加者が予定人数を下回っているため、参加の呼びかけが行われた。
4. 第10期一般会計予算 会計役員 西垣栄氏  
9期当初予算並みに加え、合宿を一本化しつつ10周年記念対応。出席者に承認された。

5. 委員・WGメンバの改選について

運営役員 中嶋幸宏氏

10期の委員・WGメンバが提示され、補充の必要がある委員の募集が行われた。

6. 初参加の長屋勝博氏、熊木國一氏の自己紹介が行われた。

以上（記載者：嶋田 弘僧 記）